

古事記から学ぶ その 18
倭建命の活躍の終わりは……

<1> 倭建命の最後の旅

前篇（古事記から学ぶ その 17）は、倭建命の西征・東征が終わり、伊服岐の山（現在の伊吹山）に住む神々を討ち止めるために再度の出発をするところで終わった。

「この山の神ならば素手でも勝てるはず」と豪語して、草那芸剣は美夜受比売の元に預けたまま旅立ったのだが……。山に登り始めたところで、牛ほどの大きさの巨大な白い猪に出会った。

「どうせ神の使者だろう。今殺すこともあるまい。帰り道の仕事に残しておこう」とやや侮り広言した。山頂に達するとものすごい雹に襲われてしまい、殆ど正気を失うほどのダメージを受けた。

白い猪を「神の使い」と思っていたが、実は神そのもので、しかもこちらの豪語を聞かれてしまった。苦しんだ挙句、なんとか頂を降りて玉倉部（たまくらべ）の清水まで来て、木陰で休んで清水で顔を洗っているうちに少しずつ冷静さを取り戻してきた。このことから、「居寤清水（いづめのしみず）」の名がついた。そして、美濃の当芸野（たぎの）あたりまで来た時に、ため息とともにこう呟いた。

「いつもなら空をも翔けたい気持ちでいっぱいなのだが、今日はどうにも足が前へ進まない。足を引きずるようで、たぎたぎしい」 このことから、この地の名前が「当芸（たぎ）」と言われるようになった。やがて、疲れがひどくなり、杖をついてのろのろと歩くようになってしまった。この地はのちに杖衝坂（つえつきざか）と言われるようになった。

尾津の崎の一本松迄来ると、以前ここで食事をした時に忘れたままになっていた太刀が残っていた。さらに進んで、三重の村に辿り着いた時に、またため息をついて、こう言った。

「私の足は腫れあがって三重にくびれてしまった」これが、三重という地名の起こりとのことである。さらに歩き、能煩野（のぼの）に着いた時に、故郷を偲んで歌を歌った。

<閑話休題>

- 伊服岐の山（いぶきのやま）＝現在の伊吹山（海拔 1377m） <https://yahoo.jp/zAVMoW>
- 玉倉部（たまくらべ）の清水＝伊吹山から南東に伸びる長い稜線を関ヶ原方面へ下ったところにある岩倉山（海拔 338m）の南面の谷の湧水。「岐阜県の名水 50 選」のひとつになっている。 <https://yahoo.jp/Q-n6Ax>
- 美濃の当芸野（たぎの）＝岐阜県養老郡の養老山地の麓一帯を当芸野（たぎの）と言った。
玉倉部の清水から、関ヶ原経由でこの地に入ったのか、それとも山越えか？
東海道線の大垣駅から長良川河口の桑名までを走る養老鉄道は、養老山地の長い長い稜線の東麓を走り続ける。物静かな車窓の景色を思い出した。
<https://yahoo.jp/8TYvxy>
- 杖衝坂（つえつきざか）＝現在の四日市市采女町の東海道の東側にある坂。鈴鹿川と内部川（うつべがわ）に挟まれた海拔 50mほどの台地。 <https://yahoo.jp/wraxvp>
- 尾津の崎（おづのさき）＝現在の桑名市多度町にある尾津神社が一本松の場所と言われている。
養老山地の南端が桑名の平野に落ちるところで、長良川の西岸にある。
おそらく古代には海岸線の岬だったと思われる。 https://yahoo.jp/V5_c8C
- 三重の村＝「現代語訳古事記」には、注釈として「四日市市采女町あたり」と書いてある。

●能煩野(のぼの)＝この場所は、現在の三重県亀山市能褒野(のぼの)町にある能褒野神社とされている。関西本線の井田川駅の北方にある。

古事記の記述どおりの足取りを現在の地図に当てはめてみると、

伊吹山→関ヶ原→養老町→四日市市采女→桑名市多度→四日市市采女→亀山市能褒野というルートは少々遠回りな感じがするが、体調不良で彷徨していることを意味するのか。それとも当時の街道のルートは今とは異なるのか。

能煩野(のぼの)に着いた時に、故郷を偲んで歌った歌、(古事記原文を併記して見た)

大和は 國の真秀(まほ)ろば 畳(たた)なづく 青垣 山籠(やまごも)れる 大和しうるはし
(夜麻登波 久爾能麻本呂婆 多多那豆久 阿袁加岐 夜麻碁母禮流 夜麻登志宇流波斯)
いくつかの歌を歌ったあと、急に病気が重くなり、歌った歌は、

嬢子(おとめ)の床の辺に 我が置きし つるきの太刀 その太刀はや
美夜受比売の元に預けてきた草那芸剣のことを歌った歌を最期として、倭建命は息を引き取った。

<2> 死してのちの倭建命

倭建命の死は、早馬により都に伝えられた。訃報を聞いた后や御子達が大和から亀山の能煩野(のぼの)に集まり、墓を造り弔った。陵は能褒野神社の南側にあり「能褒野王塚古墳」と名がついている。墳丘長 90mの前方後円墳で伊勢北部では最大級の古墳と言われており、安楽川の北岸に面した所にある。 <https://yahoo.jp/6xt92a>

倭建命は、ハ尋もある大きな白鳥となって空を翔けて海に向かって行った。

そして、河内の國の志巖(しき)に降りてこの地に留まったので、この地に陵を造り「白鳥(しらとり)の陵」と名付けた。しかし、白鳥は再び天を翔けて、この地を去ってしまった。

白鳥の陵は、大阪府羽曳野市軽里、近鉄南大阪線の古市駅の西側にあり、全長190mの前方後円墳になっている。 <https://yahoo.jp/9-BiDZ>

<3> 倭建命の后と御子

倭建命が諸国を平定する旅を続けていた時に、久米の直(あたえ)の祖先である●七拳脛(ななつかはぎ)が側近の料理人として仕えた。古事記原文ではこのように書かれている。

凡此倭建命、平國廻行之時、久米直之祖・名七拳脛、恒爲膳夫、以從仕奉也。
古事記原文では、ここで初めて倭建命の后と御子(系図)に触れているのだが、それに先駆けて七拳脛(ななつかはぎ)の存在の紹介をしているのは何か意図があったのだろうか。

文章で書かれているものを以下に系図としてまとめて見た。(次頁参照)

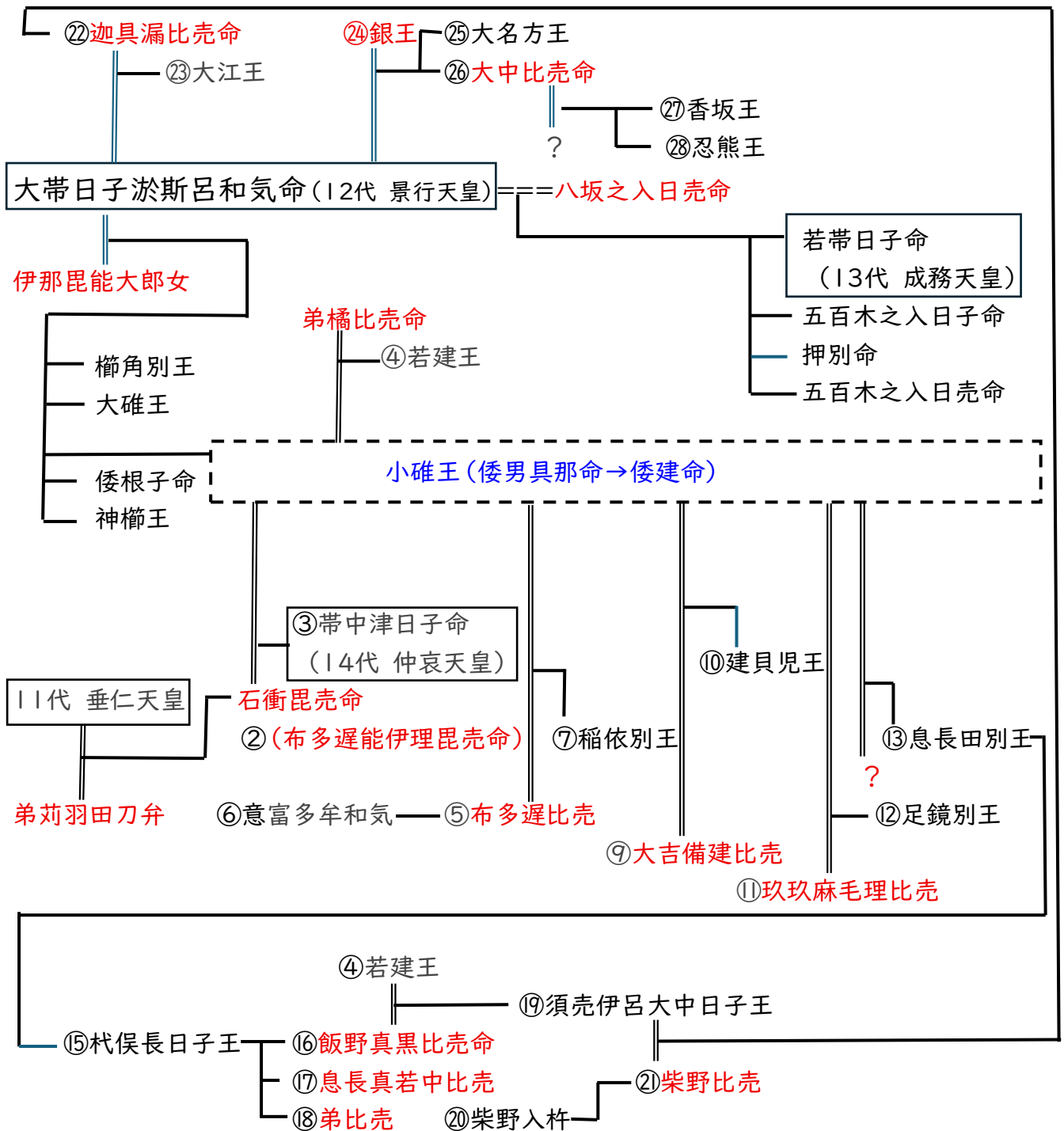
ここで特筆すべきことは・・・、倭建命は12代景行天皇が生んだ80人の御子のひとり、しかも異端児だった。父景行天皇は次代(13代)の天皇の座を、倭建命から見れば腹違いの兄弟である若帶日子命(わかたらしひこのみこと)に託した。一方、西國・東國の征圧という大きな課題は異端児倭建命に一任した。そして倭建命は、先代(11代)天皇(つまり祖父)の娘(布多遲能伊理毘売命)を后として、生まれた子帶中津日子命(たらしなかつひこのみこと)が、14代(仲哀天皇)になった。

主流にいなかった倭建命がいつの間にか、主流になっていたという面白い話である。

12代景行天皇は137歳で他界し、陵は奈良盆地東端の山辺の道にある渋谷向山古墳である。

*参照資料 古事記原文 https://www.seisaku.bz/kojiki_index.html

天皇の系図の中の倭建命の位置



登場人物のプロフィール
(番号は系図上の番号を示す)

- ①七拳脛(ななつかはぎ):久米の直の祖先。倭建命の側近の料理人で、西征・東征に随行した。
- ②布多遅能伊理毘売命(ふたぢのいりびめのみこと):垂仁天皇と弟苅羽田刀弁の間に生まれた石衝毘売命の別名。倭建命の後となり、帯中津日子命(14代仲哀天皇)を生んだ。
- ③帯中津日子命(たらしなかつひこのみこと):倭建命と布多遅能伊理毘売命の間に生まれた御子で14代仲哀天皇になった。
- ④若建王(わかたけのみこ):倭建命と弟橘比売命の間に生まれた。飯野真黒比売命(いいのまぐろひめのみこと)との間で須売伊呂大中日子王を生んだ。
- ⑤布多遅比売(ふたぢひめ):意富多牟和気(おおたむわけ)の娘。倭建命の後となり、稻依別王(いなよりわけのみこ)を生んだ。
- ⑥意富多牟和気(おおたむわけ):近淡海(ちかつおうみ)の安(やす)の国造の祖先。
- ⑦稻依別王(いなよりわけのみこ):倭建命と布多遅比売の間に生まれた。犬上の君(きみ)・建部の君などの祖先
- ⑧建日子(たけひこ):吉備の臣。
- ⑨大吉備建比売(おおきびたけひめ):吉備の臣(おみ)建日子の妹。
- ⑩建貝児王(たけかいこのみこ):倭建命と大吉備建比売の間に生まれた。讃岐の綾の君・伊予の別(わけ)・登袁(とお)の別・麻佐(あさ)の首(おびと)・宮道(みやち)の別などの祖先。
- ⑪玖玖麻毛理比売(くくまもりひめ):山城の人。
- ⑫足鏡別王(あしかがみわけのみこ):倭建命と玖玖麻毛理比売の間に生まれた。鎌倉の別・小津の君・石代(いわしろ)の別・漁田(ふきた)の別の祖先。
- ⑬息長田別王(おきながたわけのみこ):倭建命と無名の後の間に生まれた。
- ⑭杵俣長日子王(くいまたながひこのみこ):息長田別王の子
- ⑮飯野真黒比売命(いいのまぐろひめのみこと):杵俣長日子王の子。若建王の後になり、須売伊呂大中日子王(すめいろおおなかつひこのみこ)を生んだ。
- ⑯息長真若中比売(おきながまわかなかつひめ):杵俣長日子王の子
- ⑰弟比売(おとひめ):杵俣長日子王の子
- ⑱須売伊呂大中日子王(すめいろおおなかつひこのみこ):若建王と飯野真黒比売命の間に生まれた。
- ⑲柴野入杵(しばのいりき):淡海の人。
- ⑳柴野比売(しばのひめ):柴野入杵の娘
- ㉑迦具漏比売命(かぐろひめのみこと):須売伊呂大中日子王と柴野比売の間に生まれた。
- ㉒大江王(おおえのみこ):景行天皇と迦具漏比売命の間に生まれた。
- ㉓銀王(しろがねのみこ):景行天皇の異母妹。
- ㉔大名方王(おおながたのみこ):景行天皇と銀王の間に生まれた。
- ㉕大中比売命(おおなかつひめのみこと):景行天皇と銀王の間に生まれた。
- ㉖香坂王(かごさかのみこ):大中比売命の子。
- ㉗忍熊王(おしくまのみこ):大中比売命の子。